

レジンコンクリートで
社会インフラを支える

株式会社サンレック

強度や軽量性、耐久性に優れた

レジンコンクリート製品を

手がけているサンレック。

無電柱化事業や再エネ事業において、

同社の技術力が高い注目を集めている。

代表取締役社長
堤篤彦氏通信用マンホールの
メーカーとして出発

サンレックは、レジンコンクリート製品の国内トップメーカーだ。レジンコンクリートとは、熱硬化性樹脂（レジン）を結合材として用いた高強度コンクリートである。セメントを結合材とする普通コンクリートと比べ、約3倍から5倍程度の強度を持つため、さまざまな建材を軽量化・小型化でき、無筋設計のため自由な形状も実現できる。また耐薬品性、耐酸性、水密性、絶縁性にも優れる長寿命な材料で、建設工事の低コスト化、工期短縮、CO₂削減など環境貢献も実現する素材である。

レジンコンクリートは日本電信電話公社（現・NTT）が世界に先駆けて実用化に成功。その製造を担う会社として、通信建設会社・ケーブルメーカー各社の出資により1970年に同社が設立された。以後、主力の通信用マンホールを柱に順調に業績を伸ばし、97年には売上高40億円を達

成した。しかし、2000年以降、通信のインフラ整備が一段落すると、通信用マンホールの需要が大幅に減少。05年には売上高も25億円にまで減少したのです」と堤篤彦社長は語る。

新たな技術・製品開発で
V字回復に成功

そこで同社は、新たな技術・製品の開発と新規市場の開拓に着手する。まずマンホール分野においては、多分割フリースタイル工法を開発。現場ごとにあわせた分割・組立方式により、狭い道路や山中での工事が容易となり、工期を大幅に短縮できる。その結果、セメントコンクリート製品や現場打ちコンクリートに比べて、イタルコストを削減できるのだ。

「無電柱化など各種ライフラインの工事は施工場所や時間などさまざまな『制約』を受けますが、弊社はそのような制約に対応することこそ得意としています。また圧倒的な施工効率のUPにより、人手不足という

建設業界が抱える社会的課題にも貢献していると自負しています」

さらにプレス製品分野においては、曲面パネルを開発（同社特許技術）。水力発電所などの導水路の補修工法として新たな事業領域への展開を実現させ、現在では水道や農水の送水トンネルや水害対策の放水路などへも適用範囲が広がっている。

こうして同社は国土交通省、地方自治体、電力会社など取引先を次々と拡大し、17年には売り上げも再び40億円台に到達した。

三位一体となって
国家プロジェクトに対応

ただし堤社長は、現状の売上規模に決して満足しているわけではない。今、同社が大きな可能性として捉えているのが、無電柱化事業と再生可能エネルギー事業だ。国は国土強靱化として、25年までの5ヶ年で4000kmの道路の無電柱化を実施中。また30年までに、再生可能エネルギーの比率を36〜38%とする新たな

エネルギー基本計画も決定された。「特に洋上風力発電所の建設においては、各地の事業関係者とも検討を進めている最中で、レジンコンクリートの優位性が最大限に発揮できると期待しています。国家プロジェクト案件ですので、営業、技術、工場の三位一体で対応していきたいと考えています」

建設業界全体におけるレジンコンクリートのプレゼンスを高めることを目指す堤社長。その優位性と実績を多くの方々に理解いただき、今後積極的な新たな分野へ進出すること、同社をさらなる成長に導きたいと考えている。



京都市先斗町の無電柱化工事前（左）と工事後（右）。レジンコンクリート製電線共同溝が「重機が入らない狭い場所」、「深夜のみの限られた時間の中で」の施工を可能とした。



サンレック中央工場（埼玉）には、出荷前のマンホールや電線共同溝が並ぶ。他に名阪工場（愛知）と西日本工場（広島）があり、3工場6営業所で全都道府県をカバーしている。



サンレックは2020年に創業50周年を迎えた。同社の歴史とともに日本全国の地下で活躍しているレジンコンクリート製マンホールは20万基以上に及ぶ。



農業用水路トンネルの補修前（左）と補修後（右）。水路トンネル補修工法（パネルライニング工法）により、老朽化したライフラインを低コストで環境に優しくリニューアル。

COMPANY
PROFILE

会社名：株式会社サンレック
代表者：代表取締役社長 堤篤彦
設立：1970年
事業内容：レジンコンクリート製品の設計・製造・販売・工事（無電柱化・電力・通信・上下水道・ガス・鉄道向け建材）
所在地：東京都板橋区成増1-30-13
成増トーセイビル9階
連絡先：Tel.03-6807-9515
<https://www.sunrec.co.jp/>